



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 385
April
2025

トピックス

ADRC客員研究員レポート

Ⅰ フサイン・ナシーム
(モルディブ)

Ⅱ クラダ・ベトゥール
(トルコ)

関係機関との協力推進

第4回気候変動予測に関するウェビナーシリーズの開催

アジア最新災害情報

ミャンマー地震

Asian Disaster
Reduction Center
アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
<https://www.adrc.asia>

© ADRC 2025

●ADRC客員研究員レポート

フサイン・ナシーム (モルディブ)

はじめまして。私は、モルディブの国家災害管理庁 (NDMA) で上級行政官として働いている、フサイン・ナシームと申します。

私は高校卒業後モルディブ国立大学に入学し、2020年にマーケティングを専攻して観光管理の学士号を取得しました。その後、2023年にヴィラ・カレッジで経営学修士号を取得することができました。

地理的には、モルディブは多くの島々からなる国であるため、災害管理、備え、リスク軽減の基本原則を理解することが重要だと考えています。モルディブでは風水害が頻発していることから、これらの分野についてもっと学び、リスクを軽減するための重要な原則や行動を正しく理解したいと思うようになりました。

NDMAでの業務としましては、モルディブ赤新月社 (MRC) と共にモルディブの様々な島を訪問し、特定の島のハザード、脆弱性、防災力を把握することや、災害が発生した場合の備えや行動をするためのコミュニティ緊急対応チームを設置するなどを行いながら、モルディブのリスクプロファイルを行うコミュニティ活動を行ってきました。

コミュニティ防災やレジリエンス計画の強化と地域社会の備え強化 (ERCP) プロジェクトに関与することで、災害を多く経験している日本のような国において、コミュニティの実践、災害への備え、リスク軽減戦略についてもっと学びたいという情熱が生まれました。残念ながら、モルディブでは、コミュニティ防災の重要性を理解する研究は限られています。そのため、客員研究員 (VR) プログラムは、災害の中で適応してきた優れた方法や成功したアプローチを理解するのに役立つと思います。

アジア防災研究センター (ADRC) のVRプログラムへの参加の機会を頂き、災害への備えやコミュニティの実践に関する知識を深めることができると考えています。得られた知識や経験は、きっとモルディブでの私の現在の職務に大いに役立つことでしょう。



クラダ・ベトゥール (トルコ)

はじめまして。私はトルコから来ました、クラダ・ベトゥールと申します。トルコの内務省災害緊急事態対策庁 (AFAD) で14年間勤務しており、現在は、国際事業管理室作業部会長を務めています。それ以前は13年間、人災作業部会長を務めていました。災害管理のさまざまな分野で働いてきましたが、特に災害リスク軽減の分野において長年携わってきました。上記の通り、私の専門分野は人為的災害であり、産業事故、産業事故リスク

続き

分析および影響地域モデリング、気候変動、インフラ、産業組織および工業地帯の事業継続計画に関連するEUとの調和研究、法規制に関する研究を行ってきました。

人災作業部会の専門家アシスタントとして始めた最初のプロジェクトは、トルコの技術（人為的）災害ロードマップの整備でした。私は、EUの枠組みの中で、関連機関や組織を調整役として、産業の事故分野におけるAFADの役割を担当しました。そして、「トルコのセベソ施設の火災・爆発・有害物質放出のモデリング」プロジェクトでは、産業事故への準備と対応に役立てられるAFAD-EKAというソフトウェアを開発しました。また、インフラは災害の観点からも重要であることから、私のチームは分野別のプロジェクトを展開しています。これら事業は、「重要インフラの回復力と災害リスク認知の支援」と「パイロット地域におけるエネルギー部門を対象とした気候変動が重要インフラに及ぼす影響」に着目した、イズミル・エアリア・プロジェクトと呼ばれています。さらに、災害に対する産業部門の重要性に着目した、「組織化された工業地帯のための事業継続計画（BCP）ガイド」を作成し、公表しました。また人災作業部会の議長として、「トルコにおける気候変動に起因する災害リスクの適応と軽減におけるAFADの能力強化のための技術支援」事業を調整しました。私が2024年に完了させたこのプロジェクトは、気候変動への適応と災害管理の分野におけるトルコ初のプロジェクトとなりました。



今回、ADRCのVRプログラムで来日できたことは、私にとって大きなチャンスだと思います。私の研究テーマである、「気候変動による災害への適応とリスク軽減の研究」は、帰国後より有益な仕事に繋がると信じています。日本で得た経験を活かして、母国での業務に、今後より貢献できるでしょう。

383号からお伝えしてきた2024年度のVR 6名は、無事日本での研修プログラムを終え、3月末に帰国いたしました。日本滞在中に、多くの関係機関の皆様にお世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

●関係機関との協力推進

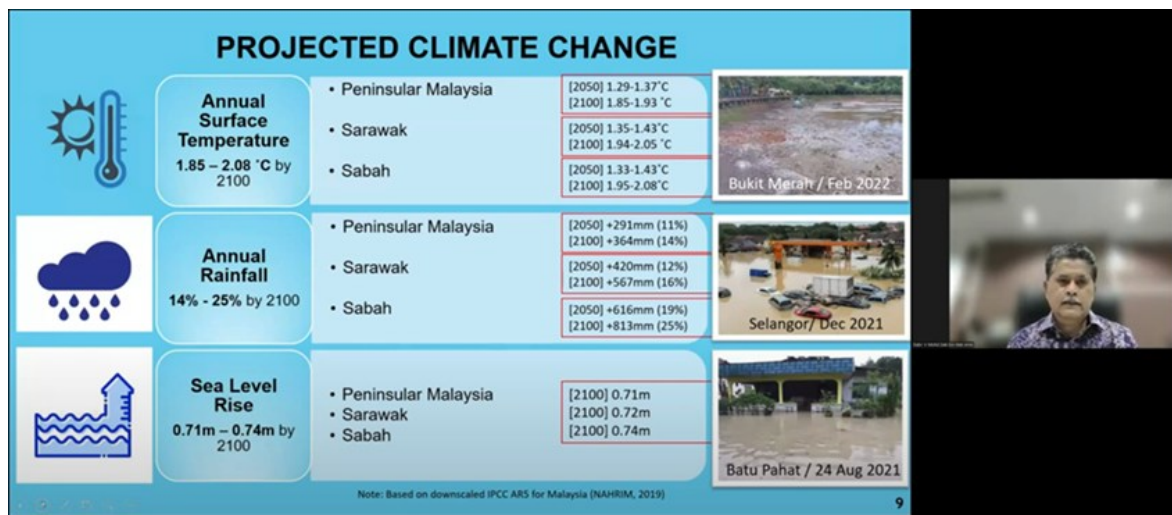
第4回気候変動予測に関するウェビナーシリーズの開催

2025年2月27日、マレーシアを交えたアジア太平洋地域の災害リスク軽減のための気候変動予測に関する第4回ウェビナーシリーズが開催され、モハンマド・ザキ・ビン・マット・アミン氏（マレーシア国立水研究所所長）は、2100年までにマレーシアは気候変動により、（1）年間気温が1.85度～2.08度、（2）年間降水量が14%～25%、（3）海面上昇が0.71m～0.74m、上昇すると予測されると報告しました。これらの数字は、もしマレーシアが気候変動の緩和対策を何も実施しなければ、その地域では河川の干上がり（例：2022年2月のブキッ・メラ）、洪水（例：2022年12月のセラングール州）、河川の氾濫（例：2021年8月のバトゥパハット州）がより多く発生することを意味しています。

この予測を踏まえて、マレーシアの他の講演者は、現在進行中の取り組みについて情報を共有しました。アンブン・ディンダン氏（マレーシア気象局副局長）は、同局がモンスーン高潮による悪天候の監視と予測において気候変動予測データを考慮していると述べました。ラバンヤ・ラマ・イヤー氏（世界自然保護基金（WWF）マレーシア、政策・気候変動担当ディレクター）は、

続き

WWFマレーシアは、気候変動への回復力とガバナンスをプログラムに組み込んでいると発表しました。ノルファシャリーナ・ビンティ・モハンマド氏（東南アジア防災研究イニシアティブ代表）は、災害データベースに気候変動データを統合し、地域規模で利用できるようにしたと説明しました。さらに、モハンマド・ザキ・ビン・マット・アミン氏は、マレーシア政府は2025年にマレーシア気候変動法とマレーシア国家適応計画（MyNAP）という2つの関連文書の完成が期待されると述べました。



モハンマド・ザキ・ビン・マット・アミン氏によるマレーシアにおける気候変動予測に関する発表の様子

ウェビナーでは、気候変動予測先端研究プログラム（SENTAN）領域テーマ4のメンバーも講演し、プロジェクト、技術やツール、気候変動予測に関する研究について説明しました。京都大学の森信人教授、気象庁の中江川敏行氏と村田明彦氏、水災害・リスクマネジメント国際センター（ICHARM）の森範行氏、京都大学の立川康人教授が登壇しました。本ウェビナーでは、ADRCの池田主任研究員とポトゥタン主任研究員が共同ファシリテーターを務めました。

（参考）

第4回ウェビナー：<https://www.adrc.asia/sentanpro/202502/webinar04.html>

気候変動予測先端研究プログラム（SENTAN）：<https://www.jamstec.go.jp/sentan/index.html>

●アジア最新災害情報

ミャンマー地震

2025年3月28日にミャンマーのマンドレイ近郊で発生した地震に関し、ADRCは情報収集を行っています。情報は随時更新され、以下のHPで公開されています。

ミャンマー地震サマリーレポート：

https://www.adrc.asia/publications/disaster_report/index.php

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。